

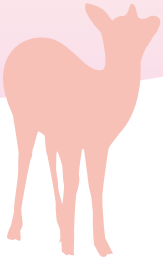


まほろばだより

2013
Winter
vol.07

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第7号



Contents

- ④ 医師のキャリアデザインを考えるワークショップを実施しました
- ④ 医学科女子学生・女性教員の交流会「En 女医 Cafe」を開催しました
- ④ 講演会「まほろば研修会－仕事と家庭の両立－」を開催しました
- ④ センターに新しいコーディネーターが就任しました!
- ④ 本学の女性比率の現状
- ④ Information
- ④ ハラスメント防止研修用DVD(音声付き)を制作しました
- ④ コミュニケーションスキルを学ぼう!
第7回「アカデミック・ハラスメントと言われたいためには」

Report 1

医師のキャリアデザインを考えるワークショップを実施しました

10月11日、医学科3年生を対象に「医師のキャリアデザインを考える」ワークショップを実施しました。このワークショップはより良い選択、キャリアの構築のため、学生の間から自分の望むキャリアについて考えてもらうことを目的とし、今年で2回目の実施となります。今年は協力者として奈良県医師会勤務医部会部会長である原健二先生、奈良県医師会勤務医部会副部会長の堀川巴清先生にお越しいただきました。まず、原先生に奈良県医師会が行っている社会貢献についてDVD等を使いご紹介いただきました。実際にどんな活動を行っているのかを、直接医師会の先生から聴くことができる貴重な機会となりました。

次に、学生113名を男女混合の10班に分けグループワークを行いました。学生たちは班ごとに司会・発表・記録係を選出し、与えられたテーマについてディスカッションを開始。さまざまな意見が出る中お互いに協力し合い、発表用の模造紙を仕上げていきました。医師会の原先生・堀川先生および本センターのスタッフにファシリテーター(司会促進役)として参加していただいたので、スムーズに作業を進めることが出来ました。

グループワーク前半のテーマは「将来医師としてどんな道に進みたいか」「将来の為に今取り組んでいることは何か」の2題。

40分間のディスカッションの後、壇上にて発表係によるプレゼンテーションが行われました。どんな道に進みたいかについては「地域医療に従事」「海外で医師」といったキーワードが出され、そのために今取り組んでいることとして「地元でボランティア」「英会話」など将来を意識した活動が挙げられました。後半は「目標実現に向けた心配事や悩みは」「目標実現のため受けた授業や整備して欲しい社会制度は」という2つの課題について話し合いました。心配事として「家庭との両立」という意見が男女とも多く見られ、出産育児後の職場復帰を支援する社会制度の充実が望まれていることがわかりました。

最後にご参加いただいた医師会の先生方から講評が述べられました。昨年に引き続きご協力いただいた原先生からは「このように若い学生たちと対話する場はめったになく有意義な時間だった」とのお言葉をいただきました。また、グループワーク中、多くの学生に気さくに話しかけて下さっていた堀川先生は、学生へのメッセージとして基礎医学の重要性をお伝え下さいました。進行役を務めたセンターのコーディネーターである須崎康恵先生は「20年後、30年後の自分につながる生活を送って欲しい」とエールを送られました。



Report 2

講演会「まほろば研修会－仕事と家庭の両立－」を開催しました

10月7日、厳樞会館にて「まほろば研修会－仕事と家庭の両立－」を開催しました。今回は中央大学文学部教授であり、“婚活”や“パラサイトシングル”といった言葉の生みの親である山田昌弘先生をお招きしました。先生は『日本の未来をつくる男女共同参画』というタイトルの講演の中で、「働く女性、働く女性を妻に持つ男性が増えたにも関わらず、未だ現状に合ったシステムが構築されていないことが問題である」と述べられ、古い体質の労働慣行や社会保障制度が女性の経済的活躍を阻んでいるとお話しされました。また、「女性の活躍が経済活性化の鍵になる」ということを様々なデータを示し、分かりやすくご説明してくださいました。講演中、何度も会場から笑いが起こり、講演後アンケートからも「もっと長くお話を伺いたかった」「他分野の話を知ることができて大変勉強になった」という感想が聞かれました。

後半は本センター御興久美子マネージャーが『子どもが病気になったとき～病児保育の実施に向けて～』というタイトルのもと、

平成25年3月に大学および附属病院の全教職員を対象に実施した病児保育に関するアンケートの結果報告を行いました。アンケートでは87%が病児保育が必要、64%が病児保育施設があれば利用すると回答し、病児保育の需要が高いことがわかりました。また、アンケートの結果報告に加え、すでに病児保育を実施している京都府立医科大学、滋賀医科大学、済生会中和病院を訪問した際の報告を行いました。他大学でどのような仕組みのもと実施されているのかを紹介し、本学でも実現が可能であることが示されました。参加者からは病児保育の早期の実現を望む声が多く聞かれ、病児保育に対する関心と期待の高さがうかがえる講演となりました。

子育てをしながら安心して働くためには病児保育の制度が「ある」ということが教職員にとって心の支えになります。センターでは子どもが病気の時に休めるような環境づくりをゴールとし、今後も様々な支援活動に取り組んでいきたいと思っております。



Report 3

本学の女性比率の現状(平成25年5月1日現在)

	医学部教員					大学院生		
	教授	准教授	講師	助教	計	修士	博士	計
男	44	45	34	146	269	12	69	81
女	11	9	17	39	76	24	28	52
計	55	54	51	185	345	36	97	133
女性比率	20.0%	16.7%	33.3%	21.1%	22.0%	66.7%	28.9%	39.1%
平成26年5月1日までの目標値	14.0%	21.9%	23.6%	22%	—	—	—	40%

目標達成まであと少し！

Report 4

ハラスメント防止研修用DVD(音声付き)を制作しました

主として指導にあたる方々を対象にハラスメント防止のための意識啓発・研修用教材、『職場におけるハラスメントの防止－快適な職場環境をつくるために－』(音声付スライド、13分)を制作しました。センターで制作したオリジナルDVDです。

※学内関係者だけでなくどなたでも貸出可能ですので、お気軽にお問い合わせください。



Report 5

joy
医学科女子学生・女性教員の交流会「En 女医 Cafe」を開催しました

10月18日、医学科女子学生と女性教員の交流を目的に企画し、9月に名前が決定した第2回 En 女医 Cafe を開催しました。今回は医学科5年生の女子学生が参加してくれました。「どの科に進んだらいいの、それをどうやって決めればいいの」「結婚・出産のタイミングは?」そんな悩みや疑問について先輩の女性教員と一緒に話し合いました。参加者たちは先輩女性教員の実体験に基づくアドバイスに熱心に耳を傾け、次々に質問をしていました。自分らしく働き続ける方法を見つける手助けとなるように、今後も第3回、第4回と続けていく予定です。興味のある方は是非ご参加ください!同時に女子学生にご自身の体験談を語って下さる女性教員、研修医の方も募集しております。



Report 6

センターに新しいコーディネーターが就任しました!

11月より新たに2名の医学科教員の先生方が女性研究者支援センターのコーディネーターに加わっていただきました。コーディネーターの先生方とともに今後もセンターの活動を広げ、全ての人が学び、働きやすい環境づくりに努めます!

本学の研究者・医師・看護師の方がより活発に仕事に取り組めるような環境づくりをしている女性研究者支援センターの活動に、コーディネーターとして参加させていただくことは大変光栄です。どうぞ宜しくお願いいたします。



地域健康医学教室
講師 岡本 希先生

神経内科で、主に外来診療と医局長業務に従事しております。この度、当センターのコーディネーターに加えて頂く事になりました。多くの女医さんが、長く快適に働けるような環境づくりに、微力ながらお手伝い出来たらと思います。



神経内科学教室
講師 降矢 芳子先生

Information 1

講演会・サイエンス
カフェを開催します

女子中高生の医理系進路選択支援
医理系の研究って
すっごくおもしろい!

日時: 平成26年1月11日(土)
午前の部 10:00~12:00
午後の部 13:10~16:00
場所: 奈良県文化会館
対象: 午前の部 中高校生(女子優先)、
保護者・教員250名
午後の部 中高校生60名(女子優先)

参加申込: Webサイトの申込フォームまたは
FAXでお申し込みください

URL: <http://www.telepac.jp/narascience/>
FAX: 03-6434-0540

Information 2

研修会を実施します

職場のいじめ・嫌がらせ
パワーハラスメントの
予防・解決に向けて

日時: 平成26年1月27日(月)
18:00~19:00
場所: 奈良県立医科大学 臨床第一講義室
対象: 本学および附属病院の教職員、学生、一般
講師: 独立行政法人労働政策研究・研修機構研究員
内藤 忍 氏

今回は医療安全推進室との共催で行います。
参加無料、事前申込み不要ですので、学外の方も是非
ご参加ください。

年度末に差し掛かり、学生に試験やレポートなどが課される時期となりました。今回はこういった行為がハラスメントになりうるのか、学生の指導にあたる際の注意点について解説します。

第7回 『アカデミック・ハラスメントと言われなかったためには』

学生から提出されたレポートや試験結果は取扱いに十分気をつけなければならないものの一つです。

ある大学では学生のレポートとそれを中傷する文書を学内の掲示板に貼り出した教員が懲戒処分を受けています。

その教員は「嫌がらせをしたつもりはない、レポートを掲示したのは励ますためだった」と話していますが、大学のホームページでは「当該教員の行為は、教育を行う立場にある者としてあるまじき行為であり、本学の秩序を乱し、本学に対する社会的な信頼を失墜させた」(学長コメントから抜粋)と発表されています。



レポートや試験結果を公の場に貼り出すことはアカデミック・ハラスメントになり、上記の事例のように懲戒処分になる可能性もあります。良好な教育・研究環境づくりに努め、学生に対する指導の際は慎重に行いましょう。

相談窓口 の ご案内

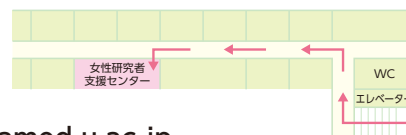
女性研究者支援センター「まほろば」では、本学および附属病院の構成員の方であれば、どなたでもご相談を受け付けております。男女や職種、常勤・非常勤など関係なく、ハラスメントや人間関係等で悩んでおられる方は一人で抱え込まず、ご相談ください。まずは支援センターのマネージャーが相談に応じます。状況に応じて心理相談員とも面談を行い、必要な支援を一緒にお探しし、解決を図ります。

相談の際のプライバシーは必ず守られますので、ご安心下さい。

ご相談は、電話やメールで随時受け付けております。

女性研究者支援センター「まほろば」 基礎医学校舎 5階

TEL : 0744-23-8011 (直通) E-mail : jshien@narmed-u.ac.jp



[編集後記]

女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウムに参加して参りました。他大学との情報交換から大きな刺激を受け、最終年度を乗り切る原動力となりました。事業の総括および数値目標達成に向けてラストスパートをかけていきますので、引き続きご支援ご協力の程よろしく願いいたします。

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学校舎 5階
TEL : 0744-23-8011 (直通) 0744-22-3051 (代) 内線 : 2525
E-mail : jshien@narmed-u.ac.jp

